

# 「第8期ひろしま高齢者プラン」に係る県民意見と その対応について

令和3年3月  
医療介護計画課

## 1 意見の募集期間及び結果

【募集期間】 令和3年1月27日～令和3年2月19日

【提出件数】 個人3名

【提出方法】 電子メール：個人1名

F A X：個人1名

電 子 申 請：個人1名

## 2 県民意見の内容と対応について

頁数	県民意見	考え方・対応方針
P34- 39	<p>◆社会参画の促進</p> <p>○プラチナ世代には、プラチナ世代なりの事情があり、老後を楽しめる人は少ないと思う。</p> <p>○プラチナ世代に、現役時代の生活を維持できる仕事を紹介できるシステムを構築する必要がある。</p>	<p>○プラチナ世代に多様な就業ニーズに応じた仕事を紹介する場所として、県では、ひろしましごと館シニア・ミドル職業紹介コーナーを設置しています。また、国ではハローワークにおいて「生涯現役支援窓口」を設置し、重点的に支援をしています。</p> <p>○「2-1 社会参画の促進」の項のうち、P35「今後の取組」において、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が満足感を得ることができる社会参画に取り組めるよう、市町や就業支援機関などの関係機関と連携し、より積極的に情報発信や社会活動の場の創出に取り組めます。</li> </ul> <p>と具体的に記載することで、「2-2 就労機会の拡充」へつながる記載とします。</p>
P37	<p>◆プラチナ大学</p> <p>○「プラチナ大学」の受講者が少ないのは、PR不足からではなく、ニーズがないからではないか。</p> <p>○老後の楽しみは、しっかり働いた75歳以降からであると思っている。ターゲットをこの世代に絞るべきではないか。</p>	<p>○プラチナ大学受講者のターゲット、テーマやカリキュラムは、開校する市町と連携して設定しています。</p> <p>○高齢になって年齢を重ねても、社会参画したいと考えておられる方が、積極的に受講していただけるよう、カリキュラムや広報を工夫して実施したいと考えています。</p>
P40-	<p>◆就労機会の拡充</p> <p>○セミナーを開き、意識改革を求める層に、雇用する会社の若年層も含めるべきではないか。</p>	<p>○独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構では、高齢者雇用における社内の理解促進に関する情報を発信しており、こうした情報を雇用労働情報サイト「わーくわくネットひろしま」等を通じて、県内企業等へ周知を図っていきます。</p>

頁数	県民意見	考え方・対応方針
P45	<p>◆老人クラブの活性</p> <p>○65歳を過ぎても働こうという施策を出しながら「60歳以上は老人」としたようなネーミング（「老人クラブ」）では加入する人はいないと思う。時代に合ったネーミングを公募すべきではないか。</p>	<p>○「老人クラブ」の名称につきましては、「シニアクラブ」などに名称を変更している自治体もあります。</p> <p>○県内一律で、名称変更を行う必要があるかも踏まえて、関係団体と今後検討してまいります。</p>
P113	<p>◆民生委員・児童委員</p> <p>○「令和元年12月の一斉改選における民生委員・児童委員の平均年齢は66.9歳で、農業を除く有職者の割合は34.6%となっています。」の文言の、「農業を除く」という言葉は記載しなくてもよいのではないか。</p>	<p>○ご意見のとおり、修正します。 「有職者の割合は、44.4%となっています。」</p>
P167	<p>◆外国人材の受入れ</p> <p>○広島県もこれからは外国人介護職員が増えることが見込まれる。彼らの生活を受け入れるべく、費用負担等のしっかりとした施策が必要ではないか。</p>	<p>○外国人材の受入れについては、受入環境を整備するため、施設間で受入れのノウハウを共有する研修会の開催や外国人介護職員の日本語学習支援に取り組んでいるところです。</p> <p>○また、外国人を含む介護職員向けの宿舎整備に要する費用支援の実施や、外国人の民間賃貸住宅への円滑入居などの居住支援の取組に向けて、市町と連携しながら検討を進めており、今後も外国人材が安心して生活できる環境整備を図ってまいります。</p>
P187	<p>◆労働力人口の減少等に伴う施策の方向性</p> <p>○参考資料（表2）を読み解くと事情が分かる。R2年度とR12年度を比較すると</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・15-64 ▲ 87,752人</li> <li>・65-69 ▲ 26,620人</li> <li>・70-74 ▲ 66,145人</li> <li>・75-79 ▲ 5,696人</li> <li>・80-84 + 52,700人</li> </ul> <p>○生産年齢人口は87,752人減少する。これを埋める層である65-69歳の人口も26,620人減少、70-74歳の人口も66,145人減少し、労働人口が延べ180,517人減少することになる。つまり、75歳まで働くことが求められる人口構成になっていくということである。</p> <p>○そうであれば、75歳まではしっかり働ける環境を整備し、「老後」は75歳以上とする明確な方針・施策が必要ではないか。</p>	<p>○ご指摘のとおり、冒頭の「策定の趣旨」（p9）において、現状認識を次のように記しております。</p> <p>「生産年齢人口が今後20年間で約26万人減少するなど、いわゆる現役世代（担い手）の急速な減少が顕著となり、地域の高齢者の介護や生活を支える人的基盤の確保がより大きな課題となってきます。」</p> <p>○さらに、総論の特に考慮が必要な社会情勢の変化の（1）人生100年時代の到来（p12）で、次のような記述をしており、これらの社会情勢を踏まえ、第8期プランの各施策を推進することとしております。</p> <p>「このような中で、社会の活力を維持、向上させつつ『全世代型社会保障』を実現していくためには、高齢者をはじめとする意欲ある人々が社会で役割を持って活躍できるよう、多様な就労・社会参加ができる環境整備を進めることが必要です。」</p>

頁数	県民意見	考え方・対応方針
	<p>◆「住み慣れた地域」の解釈</p> <p>○自分が住む地元の現状を考えても、実家から子どもの家に転居することや施設に入所するなど、同じ所に住み続ける人は少ない。</p> <p>○「住み慣れた地域」という言葉に加えて、「何らかの理由により住み慣れた地域から新しい地域へ移動したとしても、移動した新しい地域でも受け入れてもらえ、安心して暮らすことができる」などの説明文を追加してほしい。</p>	<p>○ご指摘のとおり、「住み慣れた地域」というのは必ずしも場所に限定したのではなく、実情に応じ子どもの家の近くなどに転居する場合は、「馴染みの関係性」を指す場合もあると認識しております。</p> <p>○このため、令和元年度に「広島県における地域包括ケアシステムのコアコンセプト（共通概念）」を関係者間で話し合っただけの通り整理し、第8期プランにも明記（p57）しました。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p><b>【広島県における地域包括ケアシステムのコアコンセプト（共通概念）】</b></p> <p>「高齢者が日常生活圏域において、できるだけ日常に近い環境の中で、馴染みの関係を切らずに、本人の能力に応じて自立した日常生活を続けられるよう、地域の資源を最大限活用し、医療、介護、保健・予防、住まい・住まい方、生活支援・見守りの5つの要素を、高齢者本人の状態に応じて、最適な組み合わせで提供できるようマネジメントする仕組み」をいう。</p> </div> <p>○今後、この共通概念を、市町や各地域の地域包括支援センター等を通じて、介護・福祉サービス関係者や、住民の方々にも幅広く周知・浸透していきます。</p>
	<p>◆地域共生社会の実現に向けた考え方の浸透等</p> <p>○地域共生社会の実現に向けた地域包括ケアシステムの構築へ社会の認識がまだ向いていないと感じる。</p> <p>○例えば、介護休暇は勤務先によって取りやすさに差がある。一般企業等への行政からのアプローチが必要ではないか。</p>	<p>○地域共生社会の実現に向けた地域包括ケアシステムの構築という考え方は、今後、市町や各地域の地域包括支援センター等とも連携しながら、介護・福祉サービス関係者や、住民の方々にも幅広く周知・浸透していきたいと考えています。</p> <p>○また、介護休暇など家庭と仕事の両立を支える制度等についても、行政から企業への理解と取組を促進することとしています。</p> <p>⇒3章 1-1- (3) 高齢者や家族が相談しやすい環境の整備の＜職場環境の整備＞の項目（p65）に記載</p>